

みやぎ生協

● 復興を誓い合う職員・メンバーの集い

震災からの復興の取り組みと、今後の課題と決意を共有するため、3月21日（水）みやぎ生協は「復興を誓い合う職員・メンバーの集い」を開催し、役職員やエリアリーダー（組合員）など252人が参加しました。

はじめに、映像で震災当時の活動をふり返ったあと、若手職員2人が「震災体験から学んだこと」を報告。2人のエリアリーダーからは、組合員の暮らしについて発言がありました。

続いて、震災後の3月13日、

いち早く支援に駆けつけたコープこうべ第3地区本部部長の野間誠さんが、支援当時のユニフォームを着て登壇。絆の思いにあふれた力強いメッセージを発言しました。会場からはそれに応え、感謝の大きな拍手が起きました。その後、各部から復興に向けた今後の取り組みが、決意をこめて報告されました。

最後に、宮本弘専務理事が、大震災のもとで発揮された協同組合の力と存在意義について発言し、「役職員と組合員が共に



震災発生時や店頭販売の状況を振り返る新田東店惣菜の神崎絵里さん(左)
震災2日後に支援に駆けつけたことを話すコープこうべの野間誠さん(右)

復興に向けて頑張りましょう」と、まとめを行いました。

なお参加者に、みやぎ生協発行の「活動の記録」と、職員の「震災体験記」が配られました。

● 移動店舗「せいきょう便」2号車を導入しました

3月26日（月）みやぎ生協としては2台目となる移動販売車「せいきょう便」2号車の運行を開始しました。

これに先がけ、同月22日（木）気仙沼メンバー集會室「COOPポケット」で、気仙沼菅原茂市長、南三陸町保険福祉課須藤清一参事にもご出席いただき、



「せいきょう便」の運行に歓迎のあいさつをする気仙沼市の菅原茂市長

出発式が執り行われました。齋藤昭子理事長の挨拶の後、菅原茂市長に祝辞を頂戴し、担当職員が決意表明、春日京子地域代表理事の御礼の挨拶の後、生鮮日や日用品を満載したトラックが出発しました。

「せいきょう便」2号車は、気仙沼市内と南三陸町の仮設住宅を中心に、週5日定時に巡回します。商店などから遠く、買物に困っているメンバー（組合員）への支援のために、日本生協連の支援を受けて導入することが出来ました。4tトラックの荷台には、その日の朝、石巻の蛇田店で積み込んだ野菜、生



「せいきょう便」で買い物を楽しむ市民

鮮食品、加工食品、日用品など約600品目が揃えられています。その日の価格やポイントなどのサービスも店舗と同じで、しかもコープカードならキャッシュレスでのお買物も可能です。

（総務部機関運営課課長

稲葉勝美）

食のみやぎ復興ネットワーク

● 「つくる 食べる ずっとつながる」キャンペーンが始まりました

震災から1年。食のみやぎ復興ネットワークは、宮城に縁のある商品の開発や被災地支援事業を通じて、宮城の復興の一翼を担ってきました。

2012年度はネットワークの活動や商品を広く県民の皆さんにお伝えし、気軽に参画できる「みやぎの復興活動（買い支える、食べ支える）」への参加を呼びかけていきます。そこで活動理念をビジュアル化したロゴマークをつくりました。この活動をご理解いただいたたくさん

の生産者、その食材を生かすメーカー、さらにプロデュースするみやぎ生協、そして商品を手にして頂くメンバー（組合員）が、大きな環を描いていくことで復興の後押しを買い支えていく、これを表現したのが「つくる 食べる ずっとつながる」という言葉です。そして、これからもずっとつながっていくイメージを一筆書きのイラストで象徴的に表現したのがこのロゴマークです。今年はこのマークを使ってテレビ番組やTV CM、



食のみやぎ復興ネットワーク

▲ロゴマーク

店舗での商品の紹介を行い、買い支える、食べ支える活動への参加をアピールしていきます。

（みやぎ生協店舗商品部・食のみやぎ復興ネットワーク事務局

藤田孝）

「めぐみ野(産直)」果物プロジェクト

「めぐみ野(産直)」果物生産者の被災したハウスや園地の復旧支援を行い、作付けを拡大します。バラ売りやギフト需要への対応を行い、「めぐみ野」果物の新たな需要の拡大をすすめていきます。



みやぎの豚肉支援プロジェクト

「復興めぐみ野豚(ポーク)」の発売により被災した生産者を支援していくことをはじめ、宮城県産豚肉を使用した加工肉の商品開発を進めることで、生産者を支援していきます。



なたねプロジェクト

被災した岩沼の農地に塩害に強い菜種を植えることで、耕作放棄地化を防ぐとともに、収穫されたはちみつやなたねの商品化を通じて生産者を支えます。



復興ものづくりプロジェクト

「めぐみ野(産直)」野菜プロジェクト

東日本大震災の被害を受けた生産者と一緒に塩害に強い作物栽培などを進め、再起の後押しをすとともに、「めぐみ野」野菜の代替産地づくりを進めています。



清酒「浪の音」プロジェクト

名取市関上の酒蔵「佐々木酒造」。「浪の音」は、地元の人たちに140年もの長い間、愛され続けてきた地酒です。若き蔵人たちの想いが詰まった酒は、私たちに元気を与えてくれるはずです。



宮城のかき復興プロジェクト

震災によって壊滅的な被害を受けた宮城のかき。全国2位の水揚げ量を誇っていた宮城のかき復興、そして「めぐみ野(産直)かき」再興のため、メンバーに産地の情報提供を継続していきます。



「めぐみ野(産直)」米プロジェクト

津波による被災で作付けができなくなった沿岸部の水田に代わり、比較的被害の少なかった産地での作付けを拡大。「とも補償」制度を活用することで被災した生産者への経済的支援へとつなげるプロジェクト。



《その他のプロジェクト》

- ・あおばの恋小麦プロジェクト
- ・仙南地区をいちじくの大産地にするプロジェクト
- ・松島産海苔復興プロジェクト
- ・村田の秘伝豆プロジェクト
- ・わたりのりんごワイン復活プロジェクト
- ・仙台白菜プロジェクト
- ・県北の食材を使った和菓子プロジェクト
- ・地場野菜浅漬けプロジェクト
- ・宮城県産黒毛和牛復興プロジェクト
- ・みやぎの仙台味噌プロジェクト
- ・みやぎのきのこ応援プロジェクト

宮城県高齢者生協

● はじめての「組合員フェスタ」

～つなごう組合員の輪 深めよう友情と交流 創ろう地域の未来！～

東日本大震災から1年、宮城県高齢者生活協同組合では初の試みとなる「組合員フェスタ」を、3月25日（日）被災地石巻市のこへ福祉会が運営しているデイサービスセンター「こへのお家いしのまき」をお借り



パネラー：石巻日日新聞取締役報道部長 武内宏之さん、渡波第一仮設団地自治会長 辺見俊一さん（高齢協組合員）、元松島医療生協介護職員今野和恵さん、デイサービスはまかせ介護職員菊地明さん、山形高齢協吉野文夫さん

して開催しました。被災地での開催に不安もありましたが、無事開催することが出来ましたのも、震災直後から今まで色々な方々のご支援があればこそ、心より御礼を申し上げます。

当日は、被災地視察のあと、被災された方々の生の声をお届けするパネルディスカッションから始まり、地元石巻の方々が用意されていた特製弁当の昼食タイムをはさんで演芸大会、ゲーム大会等、気がつけば予定時刻を大幅に過ぎ大盛況のうちに幕を閉じました。組合員、これから組合員になっていただける方、職員等160人近い方々にお集まりいただきました。



演芸大会「南京玉すだれ」

今回のフェスタのテーマは「つなごう組合員の輪」「深めよう友情と交流」「創ろう地域の未来」です。苦しみも喜びも分かち合い、支え支えられながら、これからも組合員、地域の皆様とともに成長してまいりたいと思います。

（事務局員 平井敏之）

大学生協みやぎインターカレッジコープ

● 災害時における相互協定を調印しました

震災1周年を前に、大学生協みやぎインターカレッジコープ（理事長・代表理事矢口洋生）は、仙台高専・聖和学園短期大学・東北生活文化大学・仙台白百合女子大学の1高専・3大学と、災害時における応急生活物資供給等の協力について、相互協定を調印しました。

協定は災害が発生した場合、相互に協力して学校の構成員、学生、ならびに学校に避難してきた地域住民の安全安定を目的としています。

（専務理事 青柳範明）



仙台高専(左上) 東北生活文化大学(右上)
仙台白百合女子大学(左下) 聖和学園短期大学(右下)